特60
216

繪本西遊記

下田惣太郎編輯

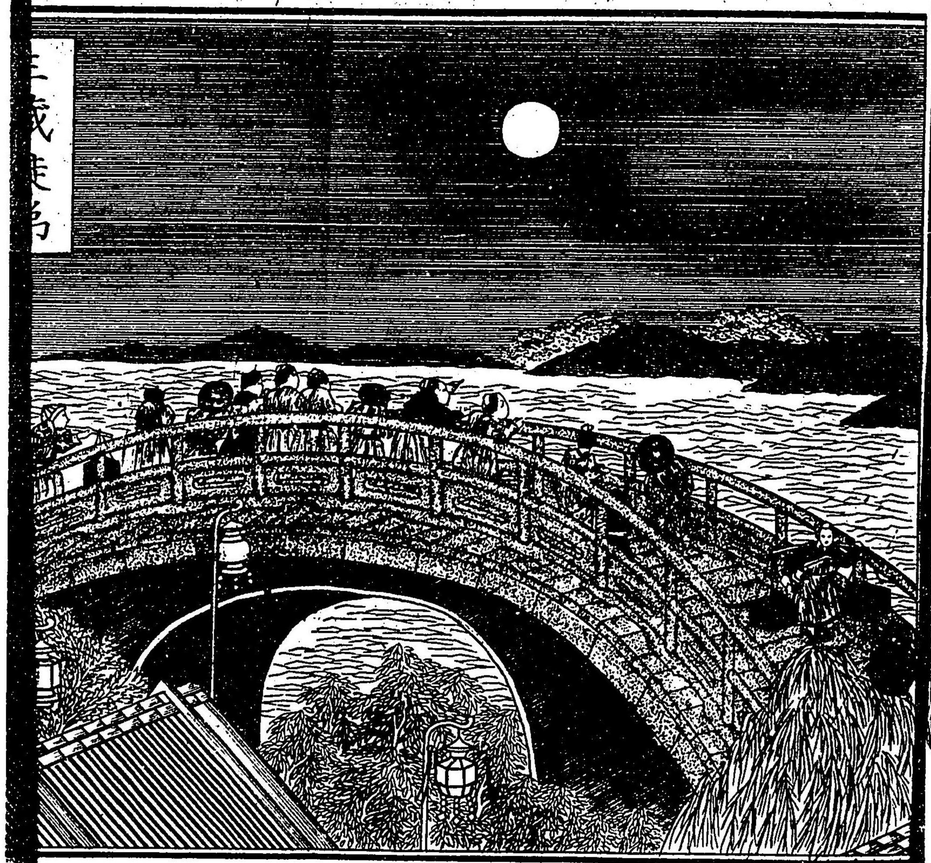
後編

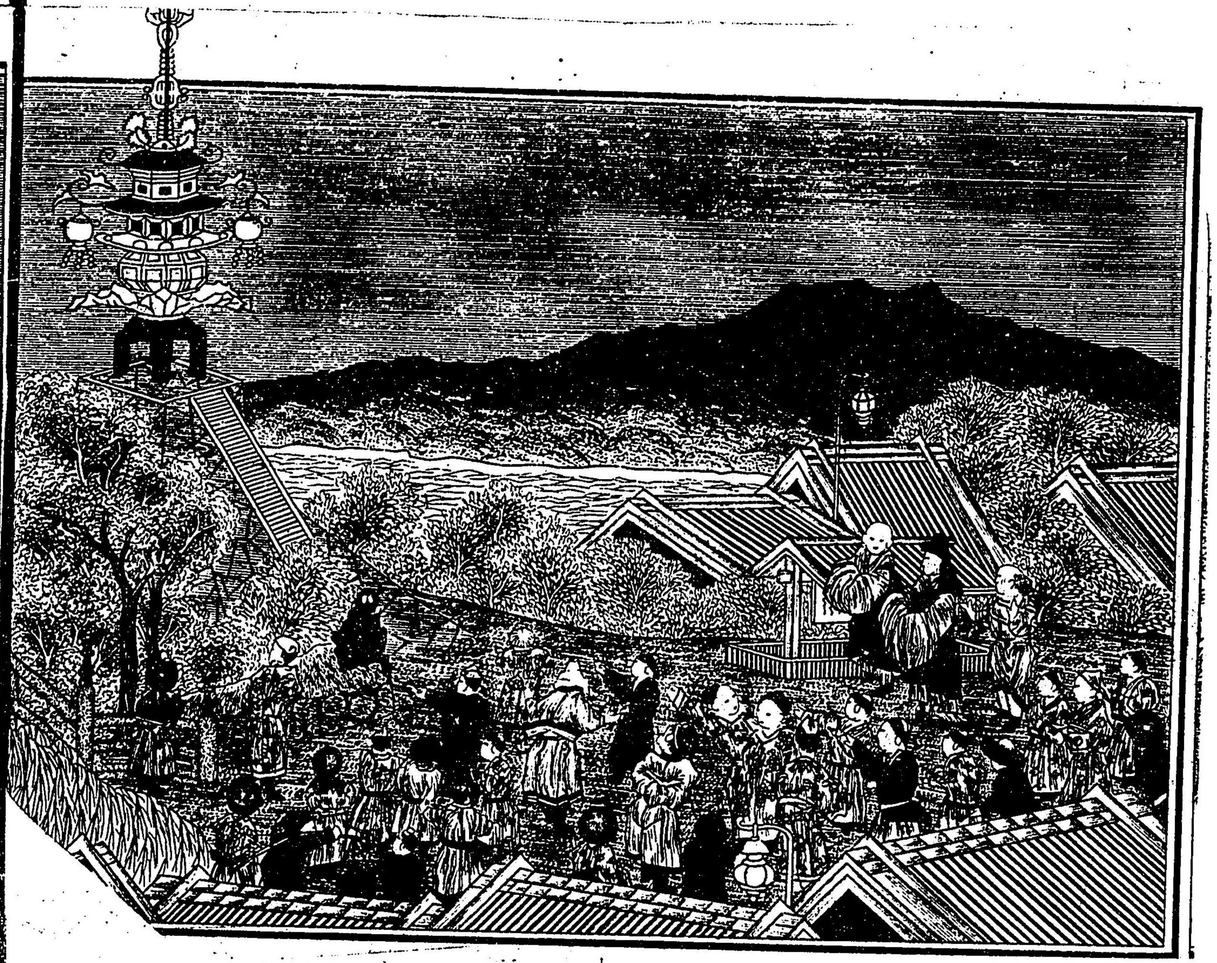
西游記 全

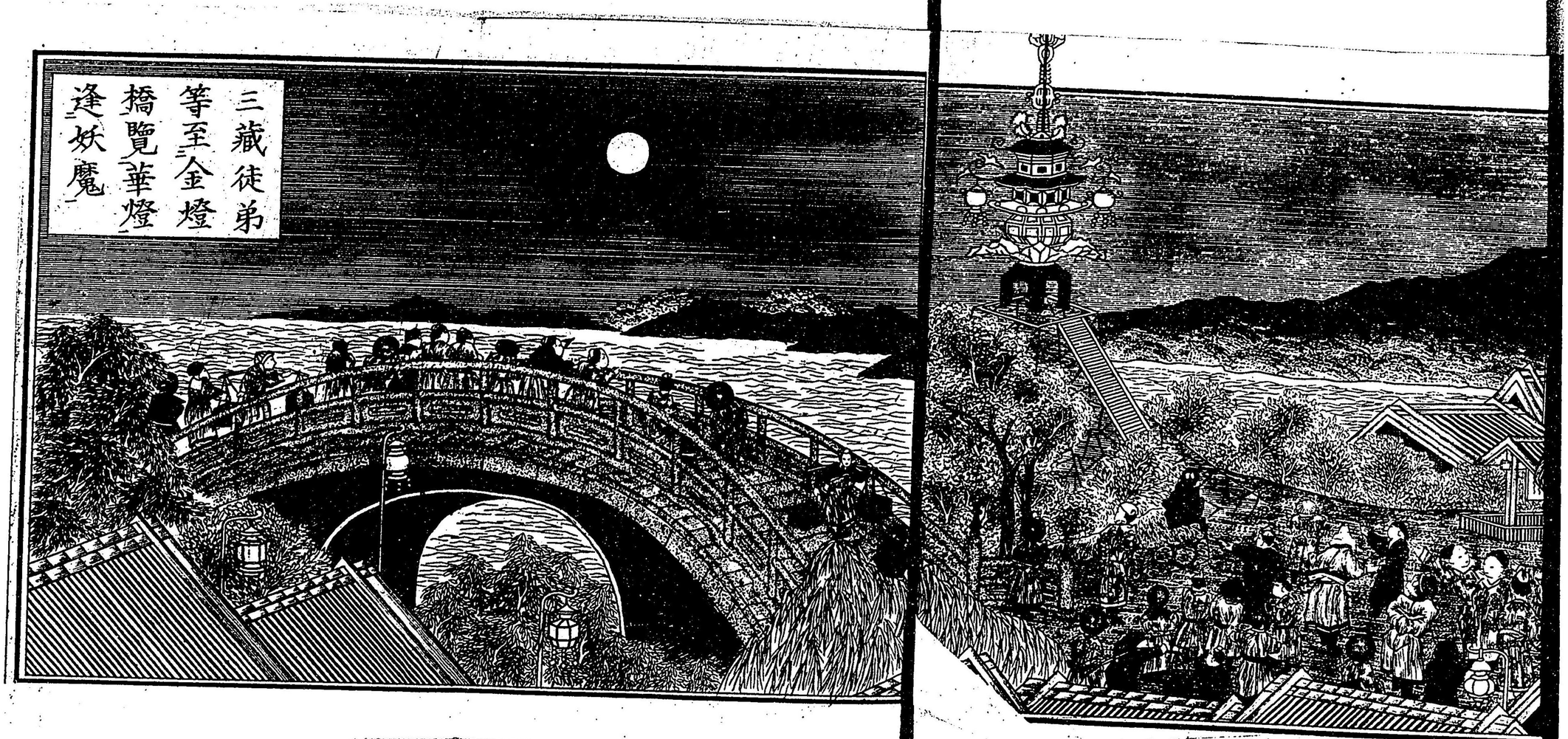
下田惣太郎編輯

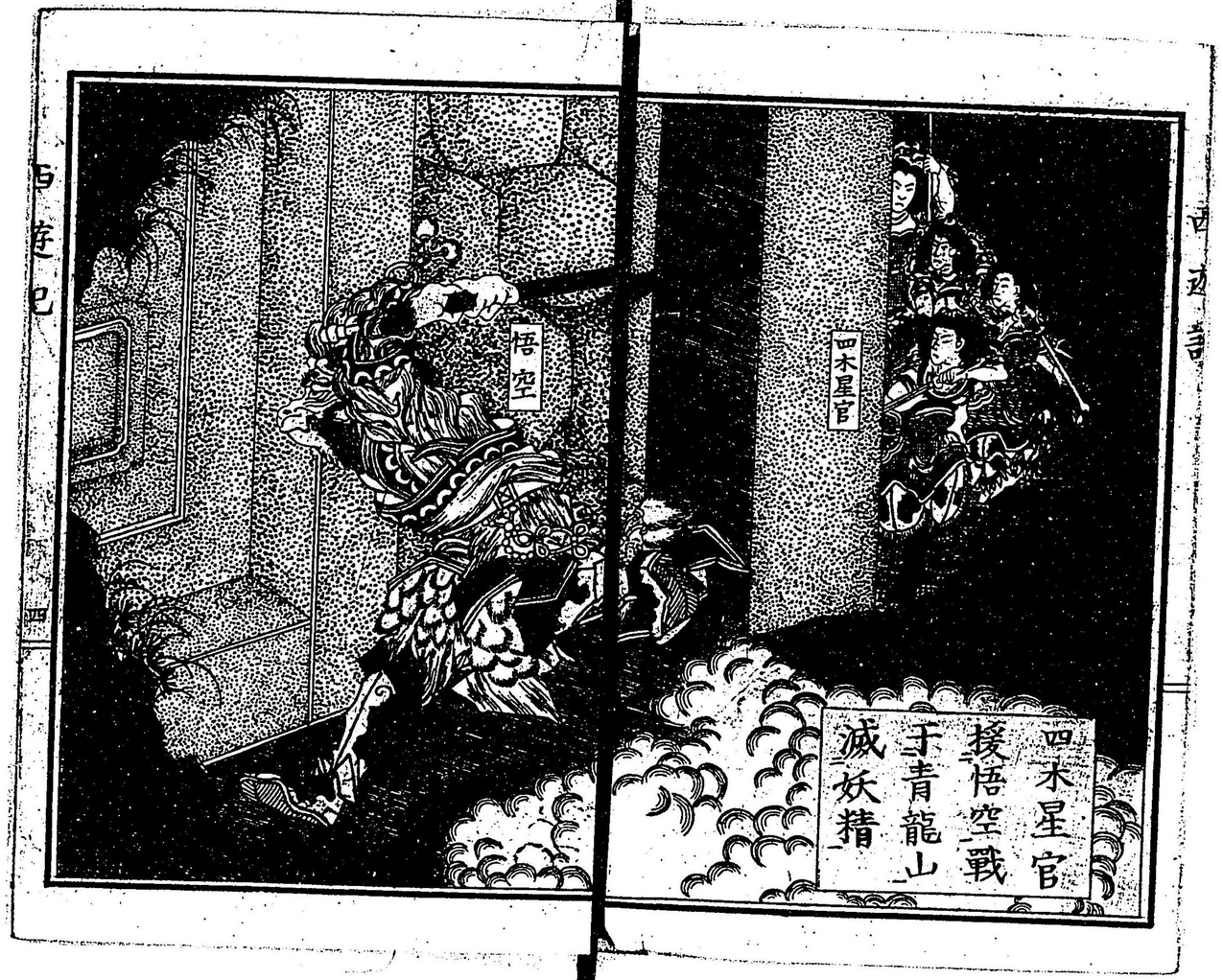
東京書肆 隆湊堂梓

大正四年四月十五日印刷納本 第1750


三藏進寺




三藏徒弟
等至金燈
橋覽華燈
逢妖魔


四木星官
援悟空戰
于青龍山
滅妖精
四木星官
悟空

三蔵
西梁女国ニ至ツテ
徒弟を顧ず
放蕩を戒
夫より城中へ

入ツて女王ハ国
王大ニ喜び

三蔵

唐田加
大師を
酌として入
贄とせん企

朱紫国王

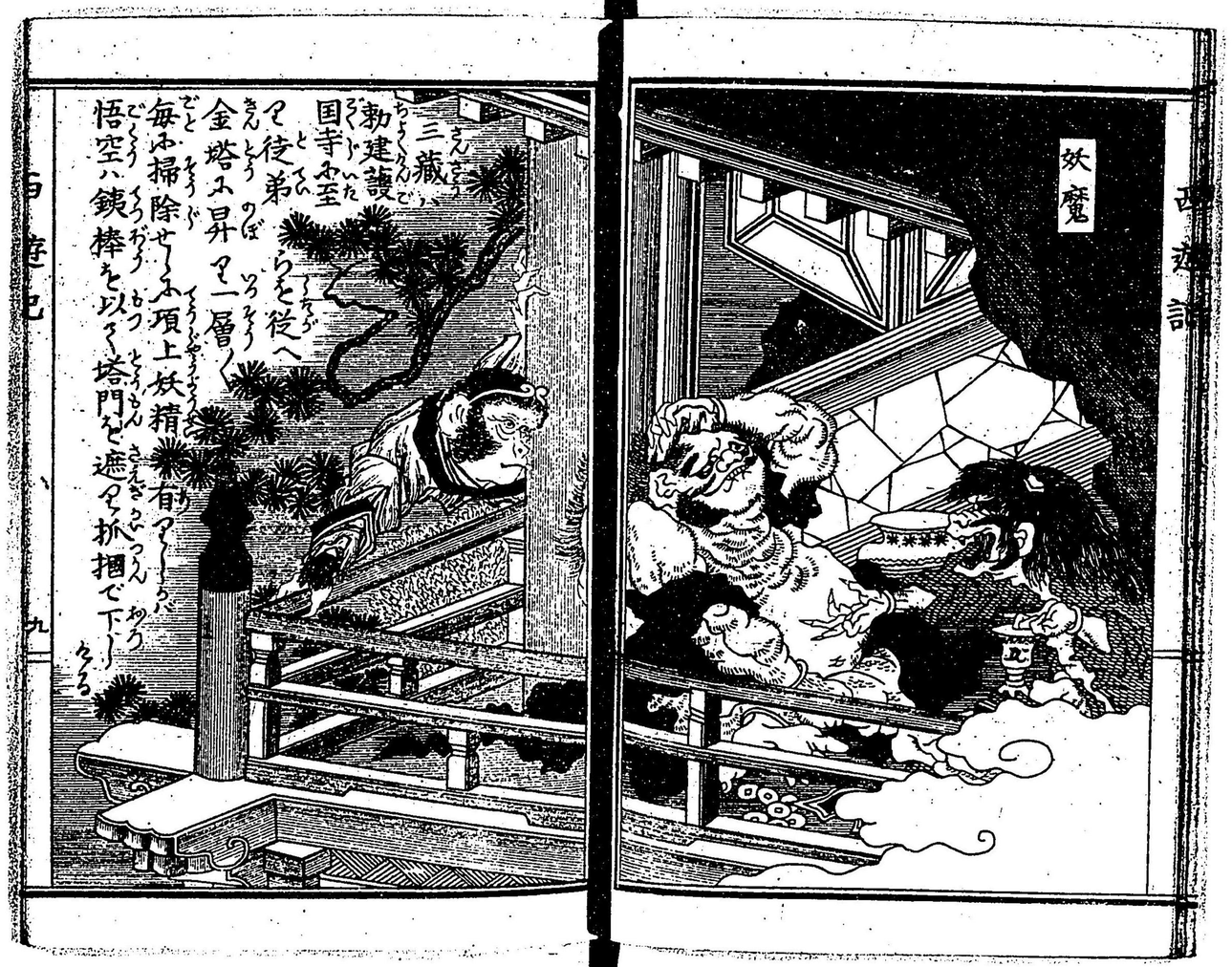
さて悟空の謀を以て女王を欺き去んとする処に玉ハ驚く処ゑ立地施風吹来り一個の女爬去バ徒弟跡を追懸行き琵琶洞へ至て敗北せり

の教を受け東天門ゑ至る昴日星官ゑひ〻て官りとゑ空ゑ大公雞とゑり彼女怪を退治せり此女怪ハ是蝎

三蔵ハ西天ヲ至ん
とする
火焔山
ありて通り

羅刹女

難ずるバ
悟空ハ翠雲山ヨ趣ク羅刹女の芭蕉扇を借らんとせしヲ女ハ
悟空ヨ怨有るバ
大ヲ怒リ三口の宝劔を提げ出て悟空
ヨ戦ひ終ヲ芭蕉扇を以搧ぎ行者を空ヲ飛ばす



三藏ハ勅建護国寺ヘ至リ徒弟らを従へ金塔ヘ昇リ一層ヘ毎ヘ掃除せしふ項上妖精有リ悟空ハ鐵棒を以テ塔門を遮リ抓掴で下ヘ

空ハ逃去アるる此時
弥勒菩薩老翁ニ
化して彼の小雷寺
の妖怪を退治
せんとぞ
云ひくる

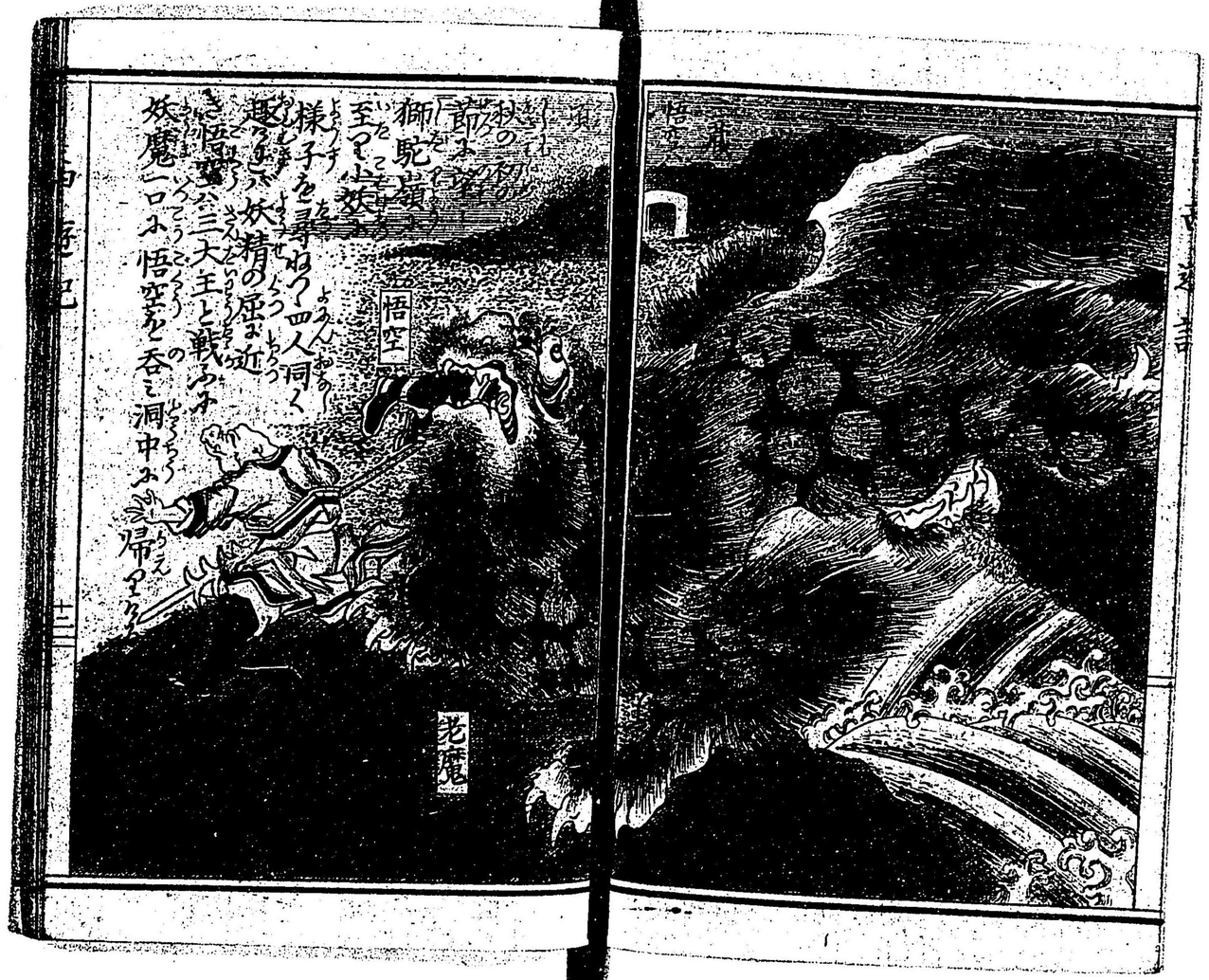
蕩魔天尊八悟
空の乞ふとして五位龍
神亀蛇二將軍を
遣し小雷音寺の妖怪
うろ〜も皆雲とあり〜る八悟

菩薩魔王を一喝し給へバ妖怪忽ち轉倒し給ふた菩薩背上ゑ打のゝ彼の三の金鈴

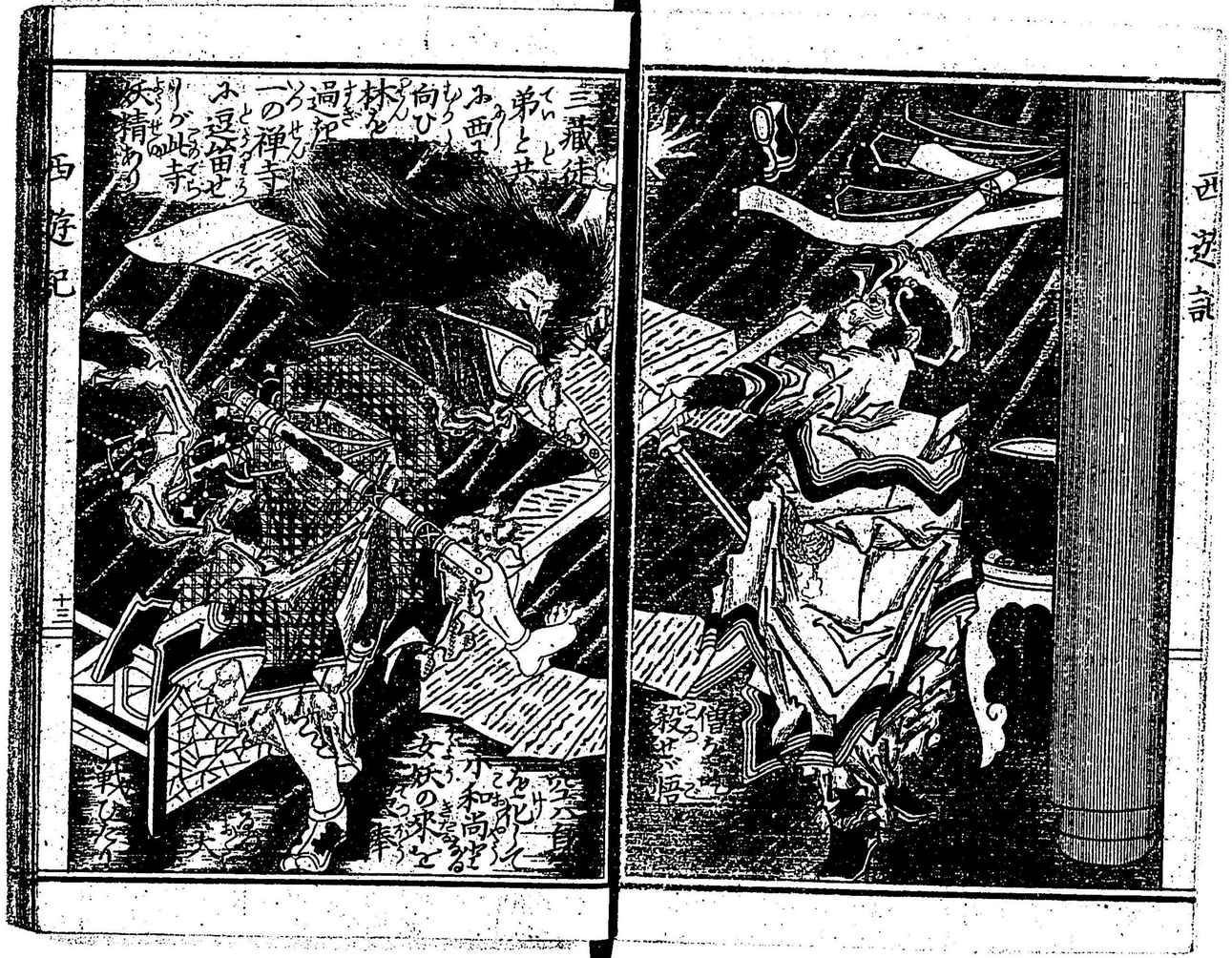
悟空

を奉ぜまゝバ悟空ハ兼て奪置ゝを菩薩ゑ渡し頓て小妖を麈とゝ然ゝて草を束ねて龍となゝ金聖皇后ゑのらしゑん朱紫国へ帰ゝ給

金聖皇后



頃日秋の初の節ふ獅駝嶺に
至つて小妖
様子を尋ぬ〻四人同く
趨るに妖精の亟ち近
悟空が三大王と戰ふ
妖魔一口ふ悟空を呑こ洞中ふ
帰る


西遊記
僧ども殺せ悟空
西遊記
十三
三藏徒弟と共に西へ向ひ林を過ぎ一の禪寺に逗留せり此寺妖精あり
空六郎二人化して小和尚と女妖の來て手を
戰ひ

東土より来る
者の肉を食
ふ者長生を
得るとて老妖
八三蔵を
待受し
み八戒ハ
上逢ひ
文々ハ敗北す洞
北帰の中

行者八一個の洞門あるを見る是則虎口洞なり

黄獅精

中へ入り黄獅精と戦ひる此黄獅なる者

金毛の獅子にて有るる悟空八戒等と戦ひカ

盡く風を起してみけ去りぬ

黄獅精既ニ敗北シ券属多殺サレ
ヨリ殘憤ヲ八戒ニ
切テ掛ル八戒モ釘
鈀ヲ拿防戦フ

三藏

行者沙僧モ等
戦フヲ此時
老妖
後ニ
有リ
ヲ九
箇の頭を振
ヲ三藏其
他ヲ口ニ喰ル洞中
ニ飯ヲ

三藏ハ王華州を離行程才一座の山門あり玆ハ雲寺と号玆ハ宿之僧を誘ひ金燈塔を扱て飛

悟空

八戒沙僧

妖精

扨捆

急ぎ

燈を見るに一陣の風吹來り諸佛の降臨と見るや忽ち怪手をさし延し

三藏

雲ふ

のア

曜風を

四衆光禪寺ヲ去リシ途中ヲ强賊ヲ逢シヲ忽行者法ヲ施シ三十余盜ヲ縛シ又其宝物ヲ

悟空

盜賊ノ

奪又ヤリ此賊ハ寇員外ノ家ヲ入ル

此時官兵賊ノ

數十人追ヲ来ル四衆ヲ

寇梁兄弟

ル行者其子細ヲ覓ル

負

斗ノ棺の側ヲ行謀ヲ以三藏始の許ス

頓て唐僧四衆ハ寇員外が家ゑ宝物を返し灵鷲高峯の邉ゑ至て斬上き一ツハ水あ渡る可き舟無く一根の危橋あて橋側ゑ梁雲渡と題せり

三蔵

扁額あり悟空ハ先ゑ渡て唐僧八戒等ゑ渡るを促せり

悟空

此時渡舟壹艘を得来らんと溺き〻くるを船曳の今ゑ扯上られ徒弟も舟と同して渡てくるゑ一の死躰流き来る怪と見きハ三蔵あり全く師父茲ゑ及て肉身の凡胎を弃ゑ

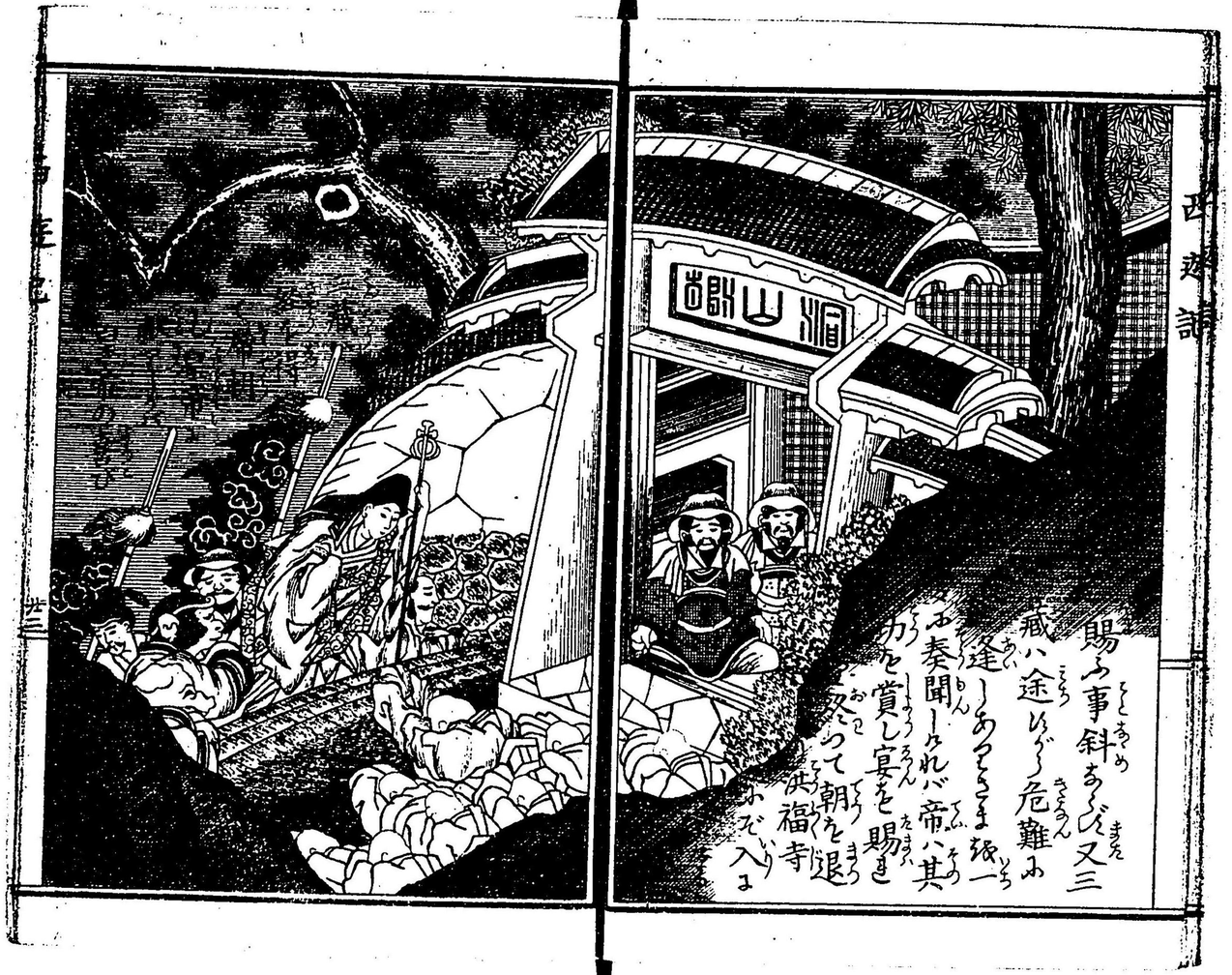
四衆ハ
梁雲

三藏

渡も渡漸く
雷音寺の下ふ
達し諸佛
の誘ひて
大雄殿
ふ入て
ハ如来普
く諸
佛を
召し左右ふ列せ
し唐僧を宣々る

唐僧如来の経を得帰る

及びゞ道に
患難を
盡せども未
だ佛門の九九真よ
満ざるバ此時観
音菩薩ハ其数を
充ーゑんと更ゐ一難を授
けーひ通天河ゐ至りて
四衆水ゐ溺れ得る處経文を濕
し岸ゐ達して水を乾さんとせーに又
狂風雷電起
是必ず妖魔
が経を奪ん
行者鐵棒
を廻して
経を守護
る



賜ふ事斜あるべし又三藏ハ途ゆゑ〳〵危難あ逢しあつたまま張一ふ奏聞しなれバ帝ハ其力を賞し宴を賜ま終つて朝を退洪福寺ふぞいり入る

皇帝ハ其経を寫さしめて三藏に賜ひ又

厂塔寺

大金剛金身を現し西天に帰る

俱ひ又真経を誦讀せしめ

可べを催

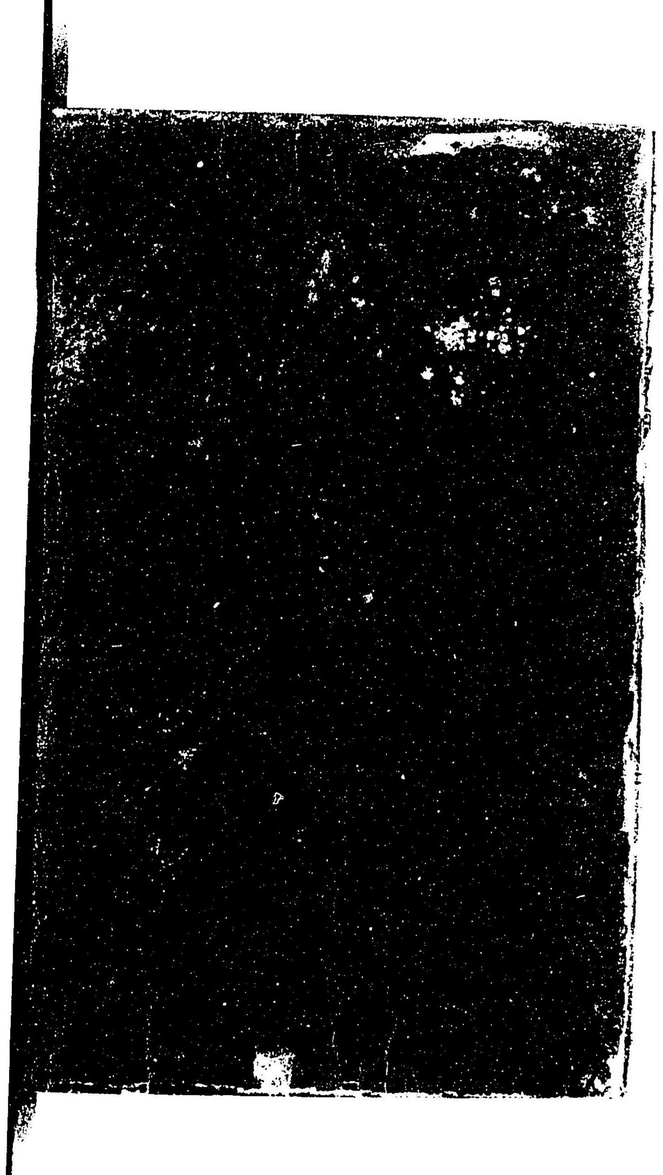
此時三藏

徒弟と共に虚空ゑ騰る

忽ち香風ゑ記來る

明治十八年十二月七日御届

定價二拾錢

編輯人　下田惣太郎
東京浅草區壽町四十二番地

出版人　隆湊堂
山本常次郎
東京浅草區壽町四十三番地